

藤原京左京七条一坊の調査(飛鳥藤原第115次)

橿原市市営住宅の建て替え工事にもなう事前調査です。敷地内に土置き場を確保する関係上、東側の約2000㎡と西側の約1000㎡の2回に分けて調査しています。4月3日に開始した東側の調査は、6月30日に現地説明会をおこない、7月3日に終了しました。9月現在、ひきつづいて西側の調査を実施しています。

調査地は、藤原京の左京七条一坊西南坪にあたります。この坪は、西が朱雀大路、南が七条大路に面し、藤原宮の正門である朱雀門から約300mという、宮にほど近いところです。

東側調査区の南西部では、坪のほぼ中軸線上の位置に、東西8間(約21m)、南北2間(約6m)の大型の掘立柱建物が建っていたことを確認しました。したがって、この時期には、少なくとも1町(約133m四方)を占める大きな敷地であったことが確



藤原京左京七条一坊の大型建物

実です。また、北東部ではL字形の溝を2条検出していますが、これが敷地内を方形に区画する施設の一部であるとすれば、中央部に1町分の内郭をもつ、4町(約265m四方)の敷地となる可能性も想定されます。

なお、大型建物が建っていたのは、藤原宮期(694～710)の後半と考えられますが、それに先立つ藤原宮期前半や、7世紀中頃～後半の掘立柱建物の跡もいくつか見つかっています。

調査地は、南東から北西方向に向かう谷地形にあたり、大型建物の北の池状遺構からは、南岸近くに堆積した木屑層を中心に、多量の木簡が出土しました。木簡の内容については、次項をごらんいただきたいと思いますが、ここに中務省なかつかさないしその関連施設があり、大型建物はその一部を構成する可能性が高いと思われま